

国際ワークショップ
ヒト健康影響評価の精緻化に向けた評価技術の開発
Future Challenges in
Developing Assessment Methodologies for Human Health Effects

○ 日 時 平成30年11月14日(水) 10:00~16:30
(12:30~14:00:休憩)

○ 場 所 内閣府食品安全委員会会議室
(東京都港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル22F)

○ 主 催 食品安全委員会

○ 議 事 (予定)

1 開会挨拶

佐藤 洋 食品安全委員会委員長

2 イントロダクション

「食品関連化学物質のヒト健康影響評価の新たな課題」
“Challenges for advanced human risk assessment of food-related
chemicals”

食品安全委員会シニアフェロー 山添 康

3 講演

座長 食品安全委員会委員 川西 徹

第1部 データギャップを埋める新技術
“Overcoming data gaps with new technology”

講演1: 「毒性学的閾値(TTC)の利用とヒト健康影響評価における意義」(仮訳)
“Use of TTC and human relevance”

欧州食品安全機関 リスク評価及び科学的支援局 主任技官
ジョージ・カス

European Food Safety Authority (EFSA)
Dr George Kass

講演2: 「毒性学的閾値(TTC)の考え方をを用いた器具容器包装の安全性評価」
“Application of TTC concept in the safety evaluation of
Food Contact Materials”

岡山大学 薬学部/大学院医歯薬学総合研究科(薬学系)教授
小野 敦

講演3：「カテゴリーに基づくリードアクロス法～ヒトへの外挿性を考慮して」
“Category-based read-across approach, considering human
relevance”

国立医薬品食品衛生研究所 安全性予測評価部 室長
山田 隆志

第Ⅱ部 ヒト健康影響評価をより精緻化するための取組み
“Improving the Evaluation of Human Relevance”

講演1：「肝毒性情報データベース：薬物による肝傷害評価への活用」（仮訳）
“Liver Toxicity Knowledge Base - A knowledge base
approach for drug-induced injury”

米国食品医薬品局 国立毒性研究センター
生物情報学・生物統計学部部門長
ウェイダ・トン

Food and Drug Administration (FDA) /
The National Center for Toxicological Research (NCTR), USA
Dr Weida Tong

講演2：「食品汚染物質のヒト健康影響評価における生理学的薬物動態モデルを
用いた内部ばく露量測定」（仮訳）

“Integration of internal dosimetrics into risk assessment of
dietary contaminants through use of physiologically based
pharmacokinetic (PBPK) modelling”

米国食品医薬品局 国立毒性研究センター
上席生物医学研究員

ダニエル・ドーギー
FDA/NCTR, USA
Dr Daniel Doerge

4 パネルディスカッション

座長 食品安全委員会委員 川西 徹
パネリスト 演者全員

5 閉会挨拶

佐藤 洋 食品安全委員会委員長